『橋本総業東雲 エコリフォームセンター』 施設見学会

公益社団法人国際観光施設協会 設備部会 部会長横山 豊



設備部会の本年度第2回目の施設見学会が3月5日に会員20名が参加し行われた。見学施設は橋本総業東雲エコリフォームセンター。空気・熱・水・電気などのエネルギーの動きを実体験し、スマートで快適な暮らしとエコリフォームを提案することをコンセプトとしている。橋本総業村上グループ長の挨拶、施設の紹介の後、ミニセミナー形式で教育研修部の鎌田部長が「今後のエネルギーと設備について」を講演。

最初に質問されたのが、「現在確認されている原油の埋蔵量は、富士山を逆さにして器に見立て何杯か?」答えは三択で、A「10杯分」、B「5杯分」、C「1杯分」。参加者の答えはAまたはBが多かったが、Cが正解。現状の消費のままだと石油は53年、ガスは63年分しかないとのこと。地球温暖化については、昨年のCOP20では2020年以降の削減目標を盛り込むことが合意されたが、今年11月のCOP21(パリ会議)での日本の目標提示は全くなし。これを踏まえ、「震災後の日本の発電電力量構成比は火力が88%」「再生可能エネルギーの問題点」「改正省エネ基準」「スマートメーターの普

及で創エネ、省エネ、HEMSが脚光」などが説明された。「超高齢化社会への移行で介護リフォームが重要」では、「ベッドサイドの移動式トイレ」「浴室のヒートショック対策」「サービス付高齢者賃貸住宅」「スマートウエルネス住宅・シティ」などが紹介された。結びとして、これからのテーマ「水素エネルギー社会」を標榜し、水素の特性と自治体等の導入計画などが説明された。講演後は施設内の見学が行われた。屋上に設置された各社太陽光発電パネルの比較展示。創エネ・蓄エネ・省エネ機器の提案。超節水便器(流量3.8L)の汚物搬送の実験。ベッドサイドトイレの設置例。スマートハウスでの電気の見える化。配管の見える化による排水状況の実演などリフォームのヒントが盛り沢山な展示実演施設でした。

見学会終了後の懇親会は近所のホテルのレストランに移動して美味しい料理とドリンクを楽しみながら懇親を深める事が出来ました。エコリフォームセンターの関係者の皆様、誠に有難うございました。





観光施設 No.312 2015.7